Q．ワークシートやテストがないので，評価が主観的なものになってしまうと思うのですが，どうしたらよいでしょうか。

A．児童による自己評価やグループでの相互評価も取り入れてみましょう。

外国語活動は，音声中心の活動です。そのため，教員による「行動観察」「発表観察」「成果物の確認」が主な評価方法となります。しかし，教師だけの評価にならないように，児童による自己評価やグループなどでの相互評価など取り入れていくとよいでしょう。

数値の評価は行いませんので，授業中の態度や活動状況・児童の変容を継続的に評価しながら文章で表記します。

評価方法としては，

①児童の様子や発言の様子を見る。
②作品を見る。
③児童の振り返りを評価する。（自己評価を評価）
④英語ノート等の記入の状況を見る。　　などが考えられます。

評価が指導目標から逸れないようにしましょう。

評価基準の設定については，国立教育政策研究所が平成23年3月に出した「評価基準の作成のための参考資料，評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考にしましょう。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyoukahouhou/shou/0211_h_gaikokugo.pdf

アドバイス

「外国語活動」での評価の観点としては，文部科学省から例示された「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に関する気付き」の３点を参考に設定することになっています。

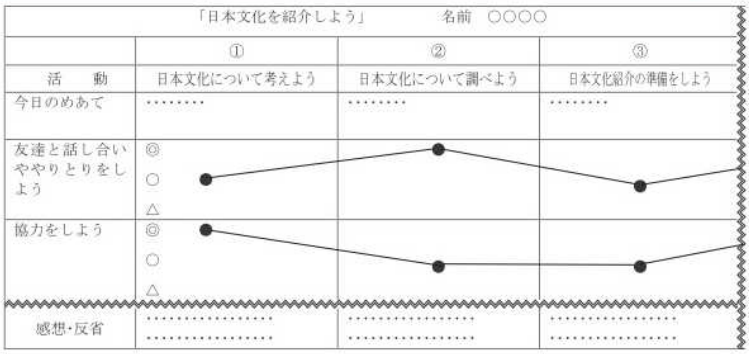
しかし，毎単元，３つの観点で評価することはありません。内容により軽重をつけたり，いくつかの観点を重点的に評価することも可能です。また，１時間ごとの授業で評価する場面は多くて３つ程度です。

自己評価の実践事例　旭市立三川小学校の「振り返り活動カード」

【自己評価の実践事例】振り返りカードの活用（旭市立三川小学校）

授業で，児童の自己評価や相互評価を適宜行うことにより，その時間の学習のねらいがどのくらい達成できたか，また，どのようなことを感じたかなどをつかむことができ，次時の学習につながる。

○変容を児童自身が視覚的に捉えることができ，活動全体が見通せる。
○次回への意欲化が図れる。
○観点は，教員が意識して活動をして欲しい点と課題にあった観点を設定する。あわせて児童自身が学習活動を考えためあてを記入する。



千葉県総合教育センター
平成23年3月発行

「『中学校外国語科』との円滑な連携を図る小学校外国語活動」のP22より